オイルレス小型コンプレッサ FA750・FA150
エアテストコンプレッサ

取扱説明書

FA750

FA150

エアテストコンプレッサ

〔ご使用前には必ず本書をお読み下さい。〕

IM0905

安全上の注意

このたびは、オイルレス小型コンプレッサをお買上げいただきましてありがとうございます。この取扱説明書ではあなたや他の人々への危害や財産の損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。

その表示とその意味は次のようになっています。内容を理解してから本文をお読みください。

誤った取扱をすると使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される事を表しています。

誤った取扱をすると使用者が障害を負う可能性及び物的障害のみの発生が想定される事を表しています。

⚠ 警　告	
事故防止のために 1. 使用後、部品の交換、掃除、点検時は必ずスイッチを切ってください。さらに、プラグを電源コンセントから抜いてください。 2. 修理技術者以外の人はコンプレッサを分解しないでください。また、改造は絶対にしないでください。 異常動作してケガをしたり本機の故障の原因となります。 3. 作業中は保護メガネを必ず着用してください。 またほこりが多くでる場合はマスクも着用してください。 研磨くず等が飛散し、失明の原因になります。	ON OFF 分解禁止 飛散注意
火災・爆発を防止するために 1. 可燃性の液体(ガソリン・シンナー等)や有毒ガスのある場所では絶対に使用しないでください。 スイッチの開閉時や使用中に火花を発しますので引火する恐れがあります。	爆発注意
感電を防止するために 1. 雨中、湿った場所で作業しないでください。感電の原因になります。 2. 運転前に必ず、接地(アース)してください。 モータ故障時に感電の原因になります。	感電注意
火災を防止するために 1. 電源コードをつかんで運んだり、電源コードを引っ張って電源から引き抜かないでください。 断線やショートをして発火、火災の原因になります。	
火災・モーター・損傷・感電を防止するために 1. 絶対に必要な場合を除き、延長コードを使用しないでください。 不適切な延長コードは、電圧降下を起こし異常電流が流れます。 2. 本機に使用する延長コードは10m以下。表示単相15A、線径 2 ㎟以上をご使用ください。	

⚠ 注　意

事故防止のために

1. 工具類はお子様の手の届かない乾燥した場所に保管してください。
2. 材料の保持は、クランプ又はバイスを使用してください。
   手を使って保持するとケガの原因になります。
3. 作動中の各種エアツールの先端に手や身体の一部を近付けないでください。また本体はしっかり持って作業してください。
4. 作業関係者以外は、作業場所に近づけないでください。特にお子様には、絶対にさわらせないでください。
5. 作業台、作業場所は常に整理整頓を心がけてください。安全面だけでなく、作業の能率アップにもつながります。

子供注意

器具の寿命アップのために

1. 器具の手入れは安全で良い作業ができるだけでなく、寿命アップにもつながります。
   注油や部品交換は本取扱説明書に従ってください。
2. 水平な地面にコンプレッサ本体を設置してください。
3. エアホースは丁寧に扱ってください。
   乱暴に扱うとエア漏れの原因になります。

4. 使用後は、必ず電源コードを電源から抜いてください。
5. 使用しない時は、エアツールをホースからはずしてください。
6. 電圧降下をさせないでください。

高温注意

火災防止のために

1. 直射日光を避け風通しのよい場所で使用してください。
   また本体は布などをかぶせないでください。発熱をおこし火災の原因になります。

⚠ 注　意

ケガや機械の損傷を防止するために 1. 本取扱説明書に指定された用途以外に使用しないでください。 2. 本機の能力を超えた作業はしないでください。 3. ネクタイをつけたり、そで口を開いたまま作業しないでください。機械に巻き込まれる恐れがあります。 4. 無理な姿勢での作業は危険です。常に足場をかため身体の安定を保ってください。 5. エアツールは、適切な圧力で使用してください。 6. スプレーガン、洗浄ガンをご使用時にはタンクの中に危険な薬品は入れないでください。また換気を十分にしてください。 7. スプレーガン、洗浄ガンを人体に向けて使用しないでください。 万が一、目及び身体に塗料または溶剤が入った場合はすぐに病院に行き、医師の手当を受けてください。	
誤動作によるケガを防止するために 本機を移動する場合は必ずプラグを電源コンセントから抜いてください。	
騒音防止規制について 騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定められた規制があります。状況に応じて遮音壁を設けて作業をしてください。	

目　次

各部の名称

●オイルレス小型コンプレッサ

●エアテストコンプレッサ

150PSI

PORTER CABLE

エアテストコンプレッサ

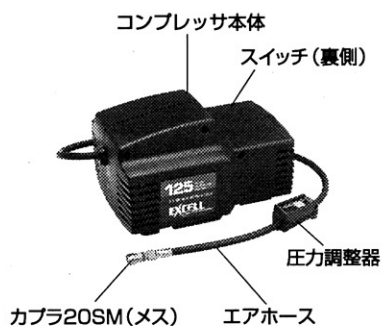
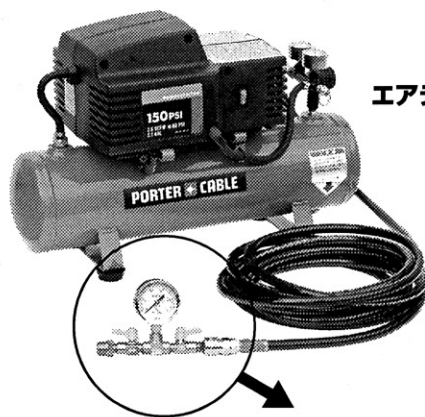
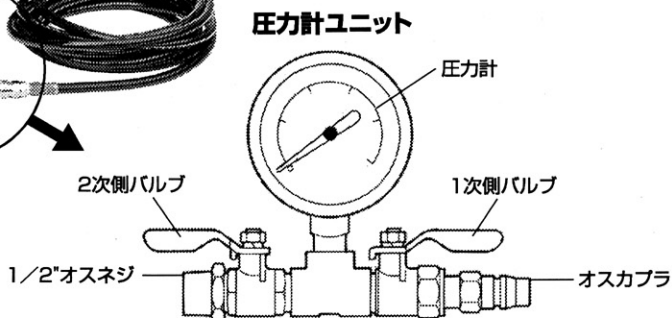
圧力計ユニット

圧力計

2次側バルブ

1次側バルブ

1／2"オスネジ

オスカプラ

仕様

●オイルレス小型コンプレッサ

品　名		オイルレス小型コンプレッサFA750	オイルレス小型コンプレッサFA150
コード No.		FA750	FA232
定格出力		750W	750W
使用電源		100V 50/60Hz	
エア吐出量		82ℓ/min	99ℓ/min
使用圧力		0～0.78MPa	0～1.03MPa
圧力スイッチ	停止圧力	———	1.03MPa
	始動圧力	———	0.83MPa
定格時間		24分	30分
エアタンク容量		———	9.5ℓ
外径寸法(L×W×H)		320×250×180mm	560×240×370mm
質量		5.4kg	11.5kg
エアホース長さ		7.6m	
エアホース接続部		カプラ20SM(メス)×1個	

●エアテストコンプレッサ

品　名		エアテストコンプレッサ
コード No.		FA150
圧力計		0～1MPa
継手	1次側	オスカプラ
	2次側	1／2"オスネジ

標準付属品

オイルレス小型コンプレッサFA750	
コードNo.	品　名
FA751	オイルレス小型コンプレッサFA750本体
FA025	カプラ20SM　NPT(メス)
P56124	プラグアダプタ

オイルレス小型コンプレッサFA150	
コードNo.	品　名
FA2321	オイルレス小型コンプレッサFA150本体
FA025	カプラ20SM　NPT(メス)
P56124	プラグアダプタ
FA7040	エアホース

○:標準付属品　▲:別販売品

エアテストコンプレッサ		
コードNo.	品　　名	
FA232	オイルレス小型コンプレッサFA150	○
FA035	圧力計ユニット 1MPa	○
R65000	ローテスト	○
FA032	圧力計 1MPa	▲

慣らし運転

オイルレス小型コンプレッサFA150を初めてご使用する前に性能が十分発揮できるよう「慣らし運転」を行ってください。各部の名称は、P4を参照してください。

慣らし運転は以下の順に行います。

1. スイッチをOFF(○)にします。
2. 100Vコンセントにコンプレッサの電源プラグを差し込みます。
3. ドレンバルブを反時計回りに開いて、タンクから空気が抜けるようにします。
4. スイッチをON(−)にし、コンプレッサを運転させます。
5. 運転5〜10分後、ドレンバルブを時計回りに回して閉じます。
6. タンク内圧力が上昇し、1.03MPaに達すると圧力スイッチが作動し、自動的にモータが止まる事を確認します。
7. スイッチをOFF(○)にします。慣らし運転が終了しました。

使用方法

1 コンプレッサ本体の確認

コンプレッサ本体を箱から取り出し輸送中の破損、変形及び欠品がないか確認してください。

2 組立(FA150のみ)

コンプレッサの圧力調整器にエアホースを取付けてください。

3 使用方法

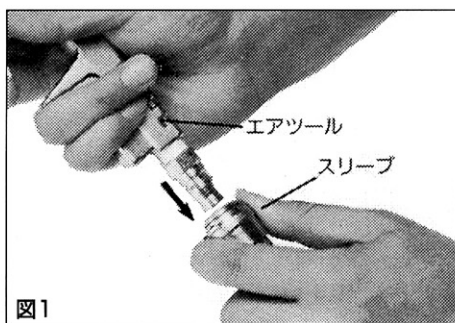
①FA150の場合、ドレンバルブを閉めてください。(図4)
②スイッチをOFF(○)にしてください。
③キャブタイヤコードの電源プラグを100Vにつないでください。

⚠ 注 意

感電防止の為にアース線も同時に接続してください。

④エアホースのカプラにエアツールを取付けてください。
この時、カプラのスリーブ(外周のリング)を手前に引きながらエアツールを差し込んでください。(図1)

図1

⑤スイッチをON(—)にすると運転を開始します。
タンク内圧力が1.03MPaに達すると圧力スイッチが作動し、自動的にモータが止まります。(FA150のみ)
⑥タンク内圧力が0.83MPa以下になると、自動的に運転を行います。(FA150のみ)
⑦圧力調整器にて希望の圧力に設定してください。

⚠ 警　告

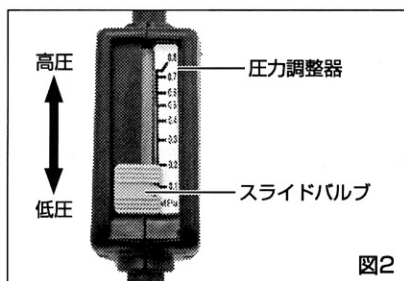
1. 運転中、および運転直後は本体と本体タンク間の配管部が熱くなります。
   配管部には触れないでください。やけどをする恐れがあります。
2. ホースも発熱しますが、異常ではありません。

⑧使用後はスイッチを切り(◯)、電源プラグを抜いてください。

4 圧力調整器

■FA750

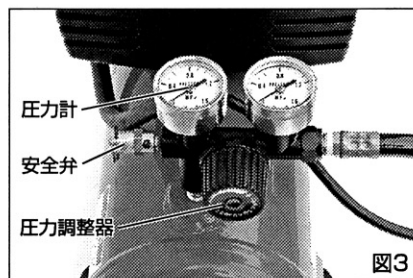
FA750には、圧力を手元で調整できるように圧力調整器がエアホースの途中に付いています。(図2)
スライドバルブを上にスライドさせると圧力が高く、下げると低く調整できます。
スライドバルブで希望の圧力に設定してご使用ください。

図2

⚠ 注　意

圧力調整器のスライドバルブを下げると調整器からエアを放出して圧力の調整をします。また水が出る場合もありますが、これは故障ではありません。(空気中の水分が圧縮によって液化します。)

■FA150

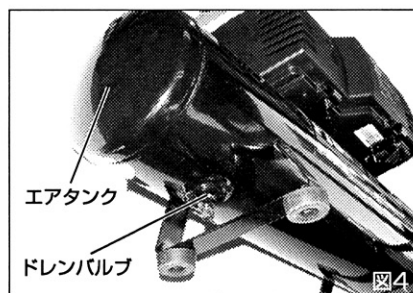
FA150は、圧力調整器のハンドルを時計方向に回すと圧力を高く、反時計方向に回すと圧力が低く設定できます。
希望の圧力に調整してご使用ください。
(図3)

図3

5 圧力計

本コンプレッサには、2個の圧力計が付いています。タンク側の圧力計は、タンク内の圧力を示し、圧力調整器側の圧力計は、吐出圧力を示します。
(図3)

6 エアタンク

FA150は、使用後タンク内にエアが残っているうちにドレンバルブを開きエアを抜いてください。その時、同時にタンク内に残った水も抜けます。(図4)

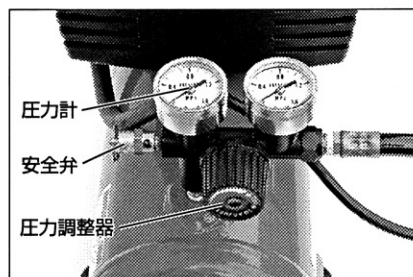
図4

7 安全弁

安全のため、タンク内圧力が1.15MPa以上になると安全弁が働き、タンク内のエアが排出される機構になっています。

①安全弁が働いた場合はスイッチを切って、圧力が下がるまで待ってください。

②安全弁が自動復帰したらスイッチを入れてください。

■エアテストコンプレッサの使用方法

①コンプレッサの圧力調整器を**0.5MPa以下**に設定してください。

②圧力計ユニットの2次側バルブを閉めてください。
③圧力計ユニットを配管後、コンプレッサのホースを1次側カプラに取付けてください。
④２次側バルブを開け、圧力計が所定の圧力に上昇したら1次側バルブを閉めてください。
⑤設定した圧力より指針が下がった場合、ローテストで漏れ箇所を調査してください。
⑥漏れが発見された場合は、適切な処置を行ってください。

⚠ 注　意

必ずコンプレッサの圧力は0.5MPa以下に設定してください。
0.6MPa以上に設定すると圧力計ユニットが破損します。

修理を依頼される前に

現　　象	原　　因	対　　策
コンプレッサが回らない	①電源がきていない	電源を入れる
	②圧力スイッチの故障（FA150）	修理または交換
	③ヒューズの溶断	ヒューズの交換
	④コンプレッサの焼き付け	専門工場で修理
	⑤モータの故障	修理または交換
	⑥キャブタイヤコードの断線	ケーブルの交換
	⑦カーボンブラシの摩耗	専門工場で交換
圧力が上がらない	①圧力調整器	スライドバルブで調整する（FA750） ハンドルで調整する（FA150）
	②エアの漏れ	エアの漏れ箇所の点検・修理
	③圧力調整器弁不良	エアホースの交換（FA750） 圧力調整器の交換（FA150）
	④ピストンリングの磨耗	ピストンリングを交換
	⑤タンクのドレンが開いている（FA150）	ドレンを締める
異常音及び振動	①設置場所の不良	設置場所の変更
	②部品の緩み	部品の増締めを行う
	③コンプレッサ本体の摩耗	摩耗箇所の部品交換

保守・点検

オイルレス小型コンプレッサの掃除や手入れは危険防止のため必ずスイッチを切り、電源プラグを抜いてから行ってください。

1 コンプレッサをいつまでも効率よくご使用いただくために使用後は本機に付いた汚れを落としてください。

2 **清掃**

プラスチック部分は柔らかい布に中性洗剤等を湿らせて清掃します。ガソリン・シンナー等を使用すると表面をいためますので使用しないでください。

3 **修理**

本機は厳密な精度で製造されています。もし、正常に作動しなくなった場合は自分で修理をなさらないでお買い上げの販売店か弊社までご用命ください。

●お客様メモ

後日のためにご記入しておいてください。
お問い合わせや部品のご用命の際にお役に立ちます。

製造番号　：

購入年月日：　　　　年　　　月　　　日

お買い求めの販売店

Asada
アサダ株式会社

本　社　名古屋市北区上飯田西町 3-60　☎(052)911-7165

東京支店	☎(03)3635-2511	さいたま営業所	☎(048)653-4121
名古屋支店	☎(052)911-7161	横浜営業所	☎(045)441-4331
大阪支店	☎(06)6743-3991	広島営業所	☎(082)238-1277
札幌営業所	☎(011)704-4391	福岡営業所	☎(092)474-4137
仙台営業所	☎(022)258-6811		

海外事業所
- アサダ・タイランド社　（バンコク）
- 台湾浅田股份有限公司　（台北）
- アサダ・アーロンコ マシナリー社　（クアラルンプール）
- 上海浅田進出口有限公司　（上海）
- アサダトレーディング USA　（オレゴン州・ユージン）

工　場
- 犬山工場　（愛知県・犬山市）
- 第一精工株式会社　（松阪市）
- アサダ・マシナリー社　（バンコク）

URL http://www.asada.co.jp　E-mail:sales@asada.co.jp

コードNo. IM0083　PRINT No.0901003IS